

# 戦争が遺したもの

鶴見 俊輔・上野千鶴子・小熊 英二〔著〕

(新曜社・2940円)

戦後の日本を代表する知識人・鶴見俊輔氏のいまだ語られていない戦中・戦後体験に、戦後世代の上野千鶴子、小熊英二の両氏が3日間にわたって迫った聞き書きである。戦時下での軍役、「思想の科学」、60年安保、ベ平連での活動で、鶴見氏が何を感じ、どのように行動したか。二人の聞き手により、その思想と行動がつまびらかにされている。その聞き手と語り手の緊迫感が、読み手を圧倒する。それゆえに三人の夕食時の「雑談」IIインタビューミッシェンも、小気味いい。鶴見氏のライフヒストリーを通して、「戦後」という時代をじっくり考えるヒントとなる好著である。

大学院生の時、本書でもたびたび登場する鶴見氏の姉・鶴見和子ゼミにいた私にとって、本書で語られる両親への思いや「一番」に対する認識が、姉・和子氏からお聞きした話と「光の当て方」が違い、面白かった。ご興味のある方には、『鶴見和子まんぢら茶羅』との読み比べをお奨めしたい。

音好宏（上智大助教授）